

# 目次

まえがき .....	3
はじめに .....	9
<b>第1部 米国特許の基礎知識</b>	
<b>第1章 米国特許制度の基本原則</b> .....	13
1.1 米国の法制度の全般的な原理 .....	13
1.2 連邦制度 .....	14
1.3 特許法の法源 .....	18
1.4 知的財産の種類 .....	19
1.5 特許による保護 .....	21
1.5.1 特許の種類 .....	21
1.5.2 特許性のある発明を認識すること .....	23
1.5.3 法律上の要件 .....	24
1.5.4 特許性の判定 .....	28
1.5.5 特許で保護されるもの .....	28
1.5.6 特許で保護されないもの .....	30
1.5.7 特許の範囲の解釈 .....	30
1.5.8 均等論 .....	31
1.5.9 コンピュータ技術 .....	33
1.5.10 ビジネス方法特許 .....	35
1.6 知的財産紛争の解決 .....	38
1.6.1 訴訟 .....	38
1.6.2 仲裁 .....	42
1.6.3 調停 .....	43

1.6.4	交渉	43
1.6.5	米国特許商標庁における再審査	43
	<b>日本弁理士から見た米国の特許制度</b>	<b>46</b>
<b>第2章</b>	<b>米国特許出願書類の作成</b>	<b>50</b>
2.1	米国特許商標庁が推奨する特許出願書類の様式	51
2.2	米国特許出願書類の推奨様式	52
2.2.1	Title of the Invention (発明の名称)	52
2.2.2	Cross-Reference to Related Applications (関連出願の参照)	52
2.2.3	Background of the Invention (発明の背景)	53
2.2.4	Objects and Summary (目的と概要)	54
2.2.5	Brief Description of the Drawings (図面の簡単な説明)	55
2.2.6	Detailed Description of the Preferred Embodiments (好適な実施例の詳細な説明)	55
2.2.7	Abstract (要約)	65
2.3	クレーム	65
2.3.1	ミーンズ (ステップ)・プラス・ファンクション・クレーム要素	66
2.3.2	ステップ・プラス・ファンクションのクレーム要素	72
2.3.3	ミーンズ (ステップ)・プラス・ファンクションのクレーム要素 に対する注意	75
2.3.4	開示されているがクレームに記載されていない発明	76
2.4	コンピュータ関連特許	76
2.5	意匠特許	78
	<b>日本弁理士から見た特許出願書類の作成法</b>	<b>83</b>

## 第2部 特許の英語表現

<b>第3章</b>	<b>米国特許出願書類を英語で書くときの基本的事項</b>	<b>87</b>
3.1	全般的な注意	87
3.2	書き始める前に検討すべき事項	89

3.3 文法と言葉遣い	91
3.4 書式、配置、句読法	96
3.5 書き終わった後で確認すべき事項	101

<b>第4章 特許でよく使われる英語表現</b>	103
4.1 特許の頻出英語表現	103
4.2 助動詞の使い方	111

<b>第5章 日本語に対応する英語表現</b>	114
日本語見出し項目一覧	116

### 第3部 知っておきたい特許関連情報

<b>第6章 特許データベースとそのほかの情報源</b>	209
6.1 米国特許商標庁（USPTO）のデータベース	209
6.2 世界知的所有権機関（WIPO）のデータベース	223
6.3 欧州特許庁（EPO）のデータベース	230
6.4 そのほかの情報源	231

<b>第7章 代理人選定の方法</b>	234
7.1 米国特許弁護士を選び方	234
7.2 特許事務所の選別法	239

参考文献	242
著者紹介	247

コラム1 特許の国際化の制度調和	29
コラム2 権利行使の費用と要する期間－米国の場合	41
コラム3 権利行使の費用と要する期間－日本の場合	44

コラム 4 間違えやすい英単語 (その1) .....	97
コラム 5 間違えやすい英単語 (その2) .....	100
欧文索引 .....	249
日本語索引 .....	251
付録 A 米国特許例 .....	ウェブサイトよりダウンロード (下記参照)
付録 B 英語原文 .....	ウェブサイトよりダウンロード (下記参照)

